

「2024年3月期は、ロシア航空会社から回収できなくなった航空機の保険金を受領したことも影響し、当期純利益で過去最高を見込んでいます。」

「航空機の需要が回復していることに加え、航空機リースを手がけるSMBCアビエーションキャピタル（AC）を通じて同業のアイルランドのゴスホークを買収した効果が出た。不動産も売却益を中心に数字を上げている。今の為替水準が続けば、26年3月期の目標に掲げる経常利益1450億円を今期達成できるかもしれない。」



三井住友ファイナンス&リース社長 橘 正喜氏

航空機を軸に成長実現



「引き続き航空機リースで世界2位のポジションを維持したい。三井住友ファイナンスグループ（FG）、住友商事の2社を株主に持ち、高い調達力、信用力があるのが当社

の流動化も進めていく。傘下のケネディックが手がけるアロックチェーン（分散型台帳）技術を応用した「セキユリティ・トークン」を航空機でも活用できるだろう。カナダの年金基金から1000億円規模の資産を航空機で運用する話も来ている」

「デジタル人材の育成を進めています。目指す姿にデジタル先進企業を掲げた。全社員がデジタル人材と呼ばれるようになる」

「年間1億円強のキャッシュフローを生んでいる。顧客ニーズに合わせたサービスを提供する部署を持つている」

「クラウド型資産管理サービス「アセットフォース」の外販に注力している」

「良いと考えている」

海外需要の取り込みカギ

旧日本GE、ケネディックス、ゴスホークなどを買収し、デジタル変革（DX）や不動産、航空機といった注力分野の拡大に向けて布石を打ってきた。15年以降、買収に投じた金額は公表しているだけで1兆円規模に上る。国内市場の成長が鈍る中、買収をテコに拡大する海外需要を取り込めるかが成長のカギになる。

（石川雅基）

記者の目